

# ケムトレイル：有毒金属と化学エアロゾルの人間の健康への影響

【訳者注】これまでに、ここで翻訳紹介したケムトレイル関係の論文の中では、これが最も長くかつ充実し、専門知識と深い哲学に裏付けられている。ただ、自然環境への影響（魚や動物の大量死など）は論じられていない。

こんな長いものは読む気がしないという人があれば、7ページの太字のところを、まず読んでいただきたい。我々自身の事なかれ主義（無関心・無気力）と、政府の、そしてそれを助けるメディアの、その利用という構図がわかれば、誰でも黙っていられないはずである。しかも我々の無気力（思考力の低下）をもたらすのが、ケムトレイルの狙いの一つだとすれば、なおさら黙ってはいられないだろう。「騒ぎすぎだよ、喘息にも皮膚病にもならないではないか」などと言っている人は反省を願いたい。相手はあなたより遥かに賢く、遥かに残酷で、周到に計画している。我々は恐ろしい世界に住んでいる。GeoengineeringWatch.comのDane Wigingtonのような警告者が、なぜ、あれほどヒステリックに警告を繰り返すのか、そして目覚めていく人がますます増えていく理由がわかるであろう。

Dr. Ilya Sandra Perlingieri

Global Research, April 23, 2016

（故イリヤ・ペルリンジェリ博士の論文は、最初、2010年5月、*Global Research* によって発表された。）



何十年も前から我々は、重金属と化学物質が、重大な身体への害を及ぼすことを知っている。レイチェル・カーソンの『沈黙の春』以来、我々は、日常の活動において、これらの毒物を使い、またそれに曝されることの深刻な結果について、知り、また警告されてきた。その何千というケースが十分に記録された発がん物質である。

カーソンの草分け的な研究を土台にして、我々もまた、ある種の化学物質は、人間（と他の動物）の免疫組織全体を破壊することができることを知っている。30年前に、研究者たち

は、内分泌（ホルモン）破壊 - 化学物質と呼ばれるようになったものを研究していて、それらがカエル（時に 5 本足を生じたり、両性の特質をもったりした）、また他の水生動物や哺乳類に異変を与えることを知った。これらの動物はいわゆる炭鉱のカナリアになった。もう一つのパイオニア的な本『盗まれた我々の未来』において、著者の Theo Colburn、Dianne Dumanoski それに John Peterson Myers は、ホルモン破壊 - 化学物質は 1 + 1 が 2 にはならないことを、はっきり証明した。

それどころか、これらの毒物は、悪夢のように数学的常識を破って、相乗作用的に働いた。そして 1 + 1 は、最初の量の 1,600 倍に相当した。我々もまた、恒常的に 10 万以上の化学物質に曝されている。それらのほとんどは、人間の安全のためにテストされていない。だから、無数の危険な化学物質への人間の被ばくを軽減するのに、ほとんど何もなされていない。実は過去 10 年の間に、ブッシュ政府は、30 年にわたって存在していた多くの環境法を撤廃して、企業をあの有名な足枷（厳しい検査）から解き放った [訳者、特にモンサント社に対して]。

ホルモン破壊の危険についてのこの情報は、現在、インターネット・サイトでより広く行きわたってはいるが、それは、ほとんど主流メディアからニュースを得ている平均的な人たちには、まだ十分知られていない。これら高度に有毒な化学物質のほとんどは、目に見えず、したがって我々の集合的レーダーから容易く抜け落ちる。この意識的に統制された財政危機によってつくり出された、高いレベルのストレスによって——そこでは何百万人が仕事と家を失った——悪化/崩壊する環境や重大な健康問題は、優先課題ではなくなっている——特に、主流メディアがこれをほとんど報じないので。我々は次々に、あまりにも沢山の大きな危機に直面するので、日常の問題にも対処しきれず、まして、我々の食物連鎖全体と、我々の“健康”と考えるものを毒する大量の重金属や化学物質の、毒物学的な健康問題を考える余裕はない。我々はこの難破した食物連鎖の天辺にいる。

ところが現在、もう一つの、はるかにより陰險な毒性の層ができていて、それは、いかなる主流企業メディア・ニュースでも全く問題にされることなく、我々の生存そのものを脅かしている。しかしそれは、インターネット報告をバックアップする証拠をもつ独立研究者によって、だんだん課題にされるようになった。

10 年以上及んで、最初アメリカの、次にカナダの市民が、有毒重金属、化学物質、その他の危険な成分をもつ毒の調合物の、24 時間週 7 日 365 日のエアロゾル攻撃を、頭上に浴びせられてきた。このうちどれ一つとして、どんな主流メディアでも報じられなかった。米防衛省（DOD）と米軍は、我々の空全体を、ケムトレイル（Chemtrails）と言われるもの（Stratospheric Aerosol Geoengineering、成層圏エアロゾル気象操作ともいう）によって、

組織的に充満させてきた。ケムトレイルは拡散しない。むしろ飛行機（特殊なノズルを装備している）が、蒸発しないエアロゾルの“ライン”を引くのである。多数の飛行機が動員され、頭上を、平行線（または、しばしば碁盤縞）を作って飛び、やがて空は多くの灰白色の線で埋め尽くされる（一定ではないが、何マイルにも及ぶ）。最初、これらのラインは細いが、やがて幅広くなり、たちまち互いに融合する。我々のかつて青かった空はなくなり、我々の通常の日光を遮蔽し、大幅に減らす、灰白色の有毒の霧（もや）に置き替わる。



軍と商業用の飛行機が、60以上の秘密活動に使われている。昨年、私が国土を横切って飛んだとき、ユナイテッド航空のジェット機が、（我々の下3万7000フィートあたりを飛びながら）黒いエアロゾルを散布していて、これが空全体に何マイルにも広がっているのが見えた。この秘密に行われるプログラムには、現在、北米、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランド（すべてのNATO諸国）のエアロゾル散布機が使われている。数千とは言わないが、数百の人々が、公的機関に答えを求めて電話し、手紙を書いている。アメリカやカナダの官公庁から返答はめったに来ない。来たとしても、問いには答えていない。これはずっと継続して意図的に隠ぺいされている。誰も責任者がいない。一方我々は、毎日、毒を浴び続けている。しかしこれは、市民が実験動物として使われる初めてのことでない。米政府と軍は、我々を我々の同意なしに、このような不法なやり方で利用する、非常に長い、汚い歴史を持っている。Carole Pellattはこう言っている――

米軍は、1940年以来、化学および生物兵器を、一般市民を使った野外テストとして撒き続けている。それは“弱点テスト”と呼ばれている。これは論争の余地のある問題ではない。米軍は多くの場合にこれを認め、それを傍証する政府内部の沢山の文書記録がある。また、一般市民に対して、放射能を意図的に、実験的に浴びせた文書記録もある。不幸なことに、この情報は、まだ犠牲者の命が助かるか、苦しみを軽減できたはずの時期から、手遅れになって明るみになることが多い。

過去 10 年間の、わが国全体に及ぶケムトレイルの独立したテストの結果、ある危険な、極端に有毒な調合物の内容が明らかになった。そこに含まれるのは、バリウム、ナノ・アルミニウム被覆繊維ガラス (nano aluminum-coated fiberglass, 別名 CHAFF)、放射性トリウム、カドミウム、クロミウム、ニッケル、脱水血液、かび孢子、黄色かび毒 (yellow fungi mycotoxins)、エチレン・ディブロマイド、それにポリマー繊維であった。バリウムはヒ素の毒性に比較され、心臓に悪い影響を与えることがわかっている。アルミニウムは、これまで脳の機能にダメージを与えてきた歴史をもつ。独立研究者や研究所は、これらの毒物の桁外れの効力を示し続けている。何人かの“匿名の”官僚は、この継続中のエアロゾル散布を認めている。

数多くのテストが行われ、これら毒物の毒性が、桁外れであることが確かめられている。それらは、我々の水、土壌、空気の中に記録されている。10 年以上にもわたって、研究者の Clifford Carnicom は、これらのエアロゾルの様々な悪影響の諸相——それが我々の環境全体や我々の血液にどんな影響を与えているか——について、勇敢に、また組織的に報告してきた。いろいろな“スカイ・ウォッチ”グループもまた、こうした日常の攻撃について、丹念に記録し、勤勉に報告している。

これらの毒物が、我々すべての呼吸を取り巻いていることを考えれば、諸病が劇的に増加したことも不思議ではない。増加の報告の多いのは、心臓病死と上気道疾患（喘息、慢性気管支炎、肺がん、それにしばしば多重慢性病）である。ケムトレイルの毒性は、すでに我々の悪化一方の“集団健康”を劇的に悪化させている。心臓病や種々の上気道疾患の深刻な増加は、我々の空気中の“粒子状物質”の大幅な増加に関連している。このことは、いくつかの目を開かせる統計に表れている——

1. 心臓関連の病気はいま、アメリカで死因のトップになっている。CDC（米疾病予防管理センター）によれば、2006 年には 63 万 1636 人が心臓病で死んだ。これは、アメリカ人 5 人に 1 人がこれに罹っているということである。

カナダでは、7 分に 1 人の割合で誰かが心臓病で死んでいる。

2. 喘息と上気道疾患：1 億から 1 億 5000 万の間で、世界全体の人々が喘息に苦しんでいる。アメリカでは、1640 万人の成人と、700 万の子供たちが喘息を患っている。慢性気管支炎と肺気腫：980 万のアメリカ人が、この 1 年で慢性気管支炎と診断された。肺気腫については人数は 380 万人。トータルで、3700 万のアメリカ人が罹患している。

カナダでは、240 万人が喘息と診断された。

3. 空気汚染における粒子状物質：粒子状物質（Particulate Matter, PM）は 10 ミクロンかそれ以下の、ごく小さい粒子からなっている（1 ミクロンは人間の髪の毛の約 1/70 の厚さ）。これらの粒子は、人間の肺の最も深い部分にまで入り込むことができる。そして一定の期間、それらは肺の機能にダメージを与える。我々が毎日吸い込むこの種の汚染物質は、さまざまな上気道疾患、心臓関連病、それに早期の老化と死を引き起こすことができる。粒子状物質はまた、存在するどんな病気をも悪化させることができる。答えのない質問：危険な粒子状物質は、人間の身体の中で相助的に働くのだろうか（内分泌破壊 - 化学物質のように）？ どのようにして PM は、すでに多重慢性病をもつ何百万の人々を悪化させるのだろうか？

## 脳障害

予防可能な病気の増加の場合でも、これまで繋がりもなく研究もされてこなかった問題が——クリフォード・カーニコムが正しく“エアロゾル犯罪”と呼ぶものによって——認知機能を悪化させている。我々の免疫システムは、すでに日常的に包囲攻撃されている。そしてこの結果として、何百万（もしかしたら何億）の人々が、1つの病気だけでなく、いくつもの病気をもつようになった。身体の最も大きな器官である皮膚は、通過可能な膜である。これは、ケムトレイルや他の高度に危険な化学物質など、我々の空気中の見えない毒性物質が、まともに皮膚の内部に侵入することを意味する。毒された雨水（や、我々の皮膚にふれる雪）も同じである。我々が呼吸する空気が、毒性物質の危険な取り合わせに満ちているとしたら、息を吸うたびごとに、これらの毒が、我々の免疫システム全体を襲うことになる。これらの毒はまた、我々の脳に作用し、したがって我々の認知機能に影響を及ぼす。

アルミニウムが、これら散布物質の主たる成分である。これは我々の惑星の最も豊富な金属ではあるが、我々の身体は、生物学的にアルミニウムを必要とはしない。「北米殺虫剤作用ネットワーク」(PANNA) は、それを「人間に対して毒性をもち、発がん性、生殖および発達への毒作用、神経毒作用、および急性中毒症状が含まれる」と表別している。ただしアルミニウムは、（これはごく短いリストだが）ワクチン、脱臭剤、あせ止め、一般医薬品、ソフトドリンクやビールの缶（アルミニウムは缶からも出る）、ベーキングパウダー、ケーキミックス、プロセスチーズ、その他、食品や添加物に、普通に用いられている。長年のうちにアルミニウムは、脳や組織、より少ないが骨にも蓄積する。それは脳の退化、機能不全、損傷を引き起こす——血流の停止や、脳動脈の酸欠によって。脳細胞が死ぬことで、脳は収縮する。これが痴呆を引き起こす。その徴候には、感情の爆発、パラノイア（偏執病）、健忘症や記憶喪失、言葉の矛盾、いら立ち、敏捷性の低下、人格の変化、判断力低下などがあ

る。これらはすべて、400 万以上のアメリカ人が罹病するにつれて、上昇している。脳の劣化と痴呆は、深刻な目に見える障害になるまでには、何十年もかかる。しかし最後には、痴呆は命取りとなる。“アルツハイマー”はいま、あらゆる種類の痴呆に間違っ用いられている。ほんの数日前、ニューヨーク・タイムズの一面に、「家から出歩く痴呆症が増加」という見出しの記事があった。タイムズが“アルツハイマー病”と呼ぶものをもつ人々がインタビューされていた。ある人が「アルツハイマー病の診断書」を持っていると言っているが、これは明らかに間違いである。アルツハイマー痴呆は、死んでから死後解剖をしなければ、正確に診断することはできない。しかし重金属中毒は実験室のテストで診断できる。ただ、基本的チェックアップのためにそれがなされることは、めったにない。

この痴呆の増加の問題で調べられていないのは、ナノ・アルミ被覆繊維ガラスを含むケムトレイルを、10 年以上も呼吸することの影響である。何十億トンのそれが、我々の頭上に撒かれてきた。一呼吸ごとに我々が吸い込む空気に、これらアルミニウムを使った日用品を加えるなら、その累積的毒性は非常に高くなる。日常の出来事においても、注意を少し払っていれば明らかだが、多くの人々が奇妙な振舞いをするようになった。これは“伝説的”噂と考えられるかもしれないが、振舞いのおかしな人々は何百万といる。過去一年でも、私が誰かにある質問をすると、全く無関係な答えが返ってきた経験が、数えきれないほどあった。公衆の面前で、抑制できない爆発をするケースがますます多くなった——明らかな理由もないのに“切れる”人々である。暴力のレベルが上がっている。学校のキャンパスでの乱射事件を考えればよい。起こるはずのない、説明のできない自動車事故が多くなった。数週間前、たった 1 日の間に、起こる必要のなかった交通事故を、私は 3 回目撃した。ニュースはこういう物語にあふれている。

このすでに高度に毒性をもった肉体の負担に加えて、米軍がエアロゾルにアルミニウムを用いている。それは、その電導性、耐久性、軽量のために用いられている。米空軍は 1997 年に、「200 万個の、6 - 7 オンス包の CHAFF」を撒いたと報告した。もう一つの答えのない質問：なぜ米空軍は、新しい更新された数字を発表しないのか？

ある 2002 年の報告はこう記している——「過去 25 年間にわたって、米海軍は、チェサピーク湾の訓練海域上で、飛行行動中に、数十万ポンドのアルミニウム化された chaff (くず、もみ殻) を飛行機から撒いた。」もし米海軍が、アメリカのこの狭い区域だけで、数十万ポンドを撒いたとすれば、2002 年より後の期間において、米とカナダ全域に撒かれた、おそらく数十億トンのナノ・アルミについて、どういうことが想定できるだろうか？ CHAFF は、その中に鉛をもつものが貯蔵されている。そういうものが、我々の知らない間に撒かれ、これらのエアロゾルに添加されているのだろうか？ どれほど莫大な、しかし目に見えない害悪が、我々すべてのために創り出されたのだろうか？

Hildegard Staninger 博士の昨年の報告によれば、「ナノ合成物質の空中散布に曝されると、その結果、コリンエステラーゼ (cholinesterase) が抑制される。」人体には 3 種類のコリンエステラーゼが存在している——脳のため、プラズマのため (肝臓でつくられる)、それに赤血球。殺虫剤のあるものと、神経ガス (VX や organophosphate のような) は、コリンエステラーゼを抑制する。これらケムトレイル・エアロゾルの散布によって起こされる、この酵素 (常態では、赤血球の中を循環する) の慢性的な抑制は、慢性的な中毒症状の原因となる。(このエアロゾルは天候操作のためだが、蚊や他の害虫の駆除にも使われる。) これに曝されることは、人間の麻痺など、深刻な神経疾患の原因となる。

画期的な 2003 年のオンライン・エッセーで、Kaye Kilburn 博士は尋ねている——「なぜ、ケムトレイル脳障害が無視されているのか？」彼の論文は、危険なケムトレイルが脳に作用することを、我々が信じたくない気持ちにさせる、13 の隠れた要因をあげている。

1. 「それは気のせいだよ」という思い込み。
2. 自分が弱いという思いへの抵抗。(個人的にも、集団的にも、脳が危機にあるとは信じたくない)
3. 脳に影響を与えることのできる (Paxil のような) 精神改造ドラッグの受容。(何百万の人々が抑うつ剤に頼っている——これも長期使用すれば認知能力を低下させる)
4. 薬物脳障害は“直ちに脅威にはならない”と考えている。
5. 他のいろんな深刻な脅威から強制される。(無関心や否定的態度をつくり出す)
6. 健康のリスクを認めることを遅らせる。
7. 経済的利害。(大企業のこの遅らせ戦術はよく知られている)
8. 神経医学分野が原因をなかなか考えようとしなかった。(医療・医薬業界に全くつながっていない独立研究者が、どれだけ残っているだろうか?)

この人間の危機に対処しない理由の、この価値ある項目の中で、キルバーン博士が直接、取り組んでいないのは、いま何十億トンにもなっている危険な、化学物質と重金属の空中散布が、我々の了承なしに 10 年以上も継続していて、これを我々が常に呼吸し吸収していると

いう事実である。人が主たる原因を突き止めて、それと取り組まないとき、それは他の諸問題に責任にされる。このことに、政府の沈黙または応答拒否、それに企業メディアの共犯が加わって、極めて危険なコンビネーションができあがり、それが我々すべてに、深刻な毎日のリスクを負わせている。脳の機能が低下し、他の要因が責められるようになれば、人民ははるかに“コントロール”し易くなる。

キルバーン博士の研究は、化学物質が確実に、深刻に脳（したがって認知機能）を侵すことを示している。化学物質は——特に、長年に及ぶ有毒化学物質の連日の攻撃は——我々の明瞭に物を考える能力にダメージを与えることができる。たとえこれが信じがたいことであっても、証拠は歴然としている。キルバーン博士はこのエッセーを拡大して、これを研究する最初の本 *Chemical Brain Injury*（化学物質による脳障害）を書いた。彼はこう言っている——

脳の保全ということが、人類の生き残る唯一の可能性を担っている。この国の多くの場所に、また一人ひとりの多くの患者の間に、脳の機能が化学物質によって——基本的に過去 50 年間に環境に取り込まれた化学物質によって——深刻に蝕まれているのを見ることは、つらく悲しいことである。

何百万、何億の人々が空を見上げて、たとえば 1990 年代中期に比べて、そこに劇的な変化が起こっていることに気づかないのは、ほとんど信じられないことに思える。その頃、我々の空は豪華な、深い青だった。雲は、美しい形の組み合わせだった。太陽は栄光そのものだった。しかし 30 歳以下の人々は、毎日空を見上げて、このパノラマの豪華さを見た記憶の、本当の感覚を持たないかもしれない。彼らのほとんどは、ケイタイに書き込んだり、おしゃべりするのに忙しすぎる。そのほかにも考えるべき問題がある。人々は自分自身の快適ゾーンに入っている。そして拒否は非常に強力な人間の感情である。雑踏の中で反省の時間をなくした人々の、どれだけ空を見上げるだろうか？ 政治的に動機付けられ、コントロールされた企業メディアの作り話を吟味し、本当の答えを探し求めることは、非常に大きな勇気と、深い内的意欲を必要とする。人間は自分の決まったルーティーンを好む。新しい証拠に基づいて、自分が知っていると思っていることを再吟味するには、よく言われる箱の外へ出て考えてみる意欲、真理を見出そうとする意欲を必要とする——我々の社会に充滿しているオーウェル流のダブルスピーク（二重の言葉）でなく。もし我々の日常生活のすべてが、本当に起こっていることに矛盾しているなら、それは未知のものを探究する——日常性に疑問を突きつける——大きな勇気を要求する。

もう一人の勇敢な人物は、ケムトレイルの毒性の問題にずっと取り組んでいる R. Michael Castle 博士である。彼は注目されるポリマー化学者で、しばしばインタビューされ、ケム



トレイルの極端な危険性について、いくつか論文を書いている。カースル博士はまた、画期的な公文書 Universal Atmospheric Preservation Act (UAPA, 普遍的な大気保存法) を書いている。この公文書は 2008 年以來、米議会にあるが、委員会が握っている。この重要な法案を通過させる唯一の方法は、我々を現実に代表する (企業ロビイストでなく) 本物の代議員をもつことである。これをご覧いただきたい——

<http://anticorruptionsociety.files.wordpress.com/2010/04/the-unified-atmospheric-preservation-act.pdf>

このような問題がある上に、我々の崩壊する社会には、あまりにも多くのレベルの欺瞞があるので——財政的崩壊、政府のウソと騙し、連邦準備銀行が住宅/抵当の悪夢を人々のせいにする、警察国家の出現、我々の傷つきやすい環境に降りかかる災害——日常のルーティーンを維持し、経済不況とその日常への影響を生き延びるだけでも、ますます困難になっている。主流メディアはそれを支える役目をし、我々を騙している。何百万という人々が、あの集団自決をするレミングのように、グループとして滅びの道を選んでいる。この集団的狂気の例は歴史的にいくらでもある。我々ホモ・サピエンス (本当に賢いか?) は、5000 年の歴史の教訓を決して学ばなかった。これは、腐敗した政治指導者の次々の新しい世代が、彼らの政治的実践の基本的部分として、自分たちの仲間の人民に真の関心をもたないからである。さらには「予防原則」という考え方がない。これは、騙しの政治的ゲームがうまくいく考え方ではない。「予防」は、初めから破綻している方程式の一部ではない。人間は騙されやすい動物で、オーウェル流の騙しを信じたがる。

このすでに重い重荷に加えて、知識はないのに、高等教育を受けていることになっている人々に、本当に起こっていることについて自分が知っていると思っていることを、考え直すようお願いするのは、非常に大きな内なる力を要する。それは深い勇気を要する。この“勇気”の基礎は現実的には、脳の中に新しいシナプシスの通路ができることである。それが作られていないと、我々は恐怖を感じ臆病になる。これらの新しいシナプシスを創るには、努力を繰り返し、それによって気楽さが生まれることが必要である。

しかし、何百万という人々がすでに、“鎮静させる”ためには処方された医薬品に頼っていて、その上、精神を歪める化学物質を含んだ毒気を呼吸しているとしたら、はたして、どれほど明瞭に考えられる者がいるだろうか? 気分よく安全を感じない者がいるだろうか——もし我々の呼吸する空気そのものが故意に毒され、整然とものを考える我々の能力が奪われているとしたら? 少しでも公的立場にある者が、真理を語ろうとしていないのは、すでに明らかである。今は、古代の哲学者ディオゲネスのように、真理を語る人を求め歩かねばならない時代である。この大規模な毒物散布を止める意欲をもつ人も、勇気をもつ人も、権

威をもつ人もいないように見える。我々がかつて知っていた事すべてを故意に破壊するのが、エリート・インサイダーの秘密の計画だからである。

我々の基本的人権、憲法、国際法などは、単なる紙切れである。これらの権利や法律はすべて、その責任者たちによって引き裂かれてしまった。それは密かに行われている。我々は平和的に組織を作らなければならない。平和的<sup>に</sup>とは実践的な言葉である。もし、これらの軍用と商業用の飛行機による、トゲをいっぱいつけたエアロゾル攻撃が、これらの恐ろしい毒物を、何年も続けて——あらゆる法に反して——我々の上に撒きながら、罰せられないとしたら、我々は、平和的に組織を作ることが絶対に必要である。Jason Berma の新しい DVD “Invisibe Empire” (見えない帝国) の中で Peter Dale Scott が言っているように、「我々は、インターネットと、我々の平和な知的能力を用いて、団結し、この悪夢を締め出さねばならない。それは実行可能である。」

[イリヤ・サンドラ・ペルリンジェリ博士 (女性) は、高い評価を得た *The Uterine Crisis* (子宮の危機) の著者である。]

(訳者：この論文には 19 項目の詳しい注がついているが、省略した。原題は Chemtrails: The Consequences of Toxic Metals and Chemical Aerosols on Human Health <http://www.globalresearch.ca/chemtrails-the-consequences-of-toxic-metals-and-chemical-aerosols-on-human-health/19047>)